

企業景況・動向調査

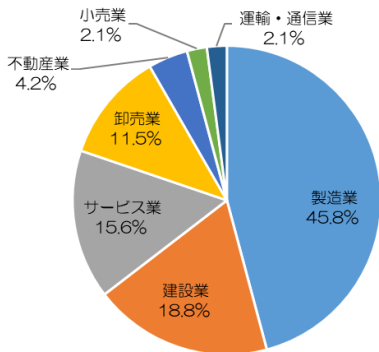
●はじめに

取引先を対象に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

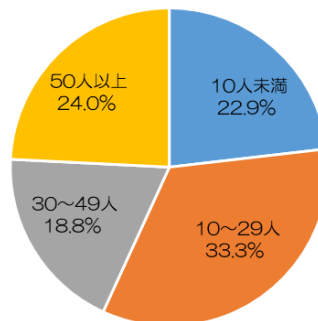
●調査概要

- 調査時期 : 令和5年1月19日(木)
- 調査対象 : せいしんビジネスクラブ会員
- 回答数 : 対象企業数107社 回答数96社 有効回答率:89.7%

◀業種内訳 (n=96) ▶



◀従業員規模内訳 (n=96) ▶



●要旨

～ 2023年上半期売上高は、企業の6割超が「横ばい」・「減少」と厳しい見方～

～ 人手不足感が強まり、中途採用を積極化する動き～

～ 今後の経営課題は「人材の確保・育成」、「新規顧客・販路の開拓」、「コスト削減・業務効率化」～

◆ 売上高実績と見通しについて

- ・売上高実績(2022年7月～12月)は、「増加」が37.9%、「減少」は22.1%となった。
- ・売上高見通し(2023年1月～6月)は、「増加(34.7%)」が減少する一方、「横ばい」(41.1%)、「減少」(24.2%)が増加し、今後も厳しい見方を示している。

◆ 経常利益実績と見通しについて

- ・経常利益実績(2022年7月～12月)は、「黒字」が69.6%と、前回調査(71.3%)をやや下回った。
- ・経常利益見通し(2023年1月～6月)は、「黒字」が77.4%と、現状を上回る見通し。

◆ 雇用状況・採用予定について

- ・現在の雇用状況は、「不足」が61.5%と前回調査(53.4%)を上回り、人手不足感が一段と強まっている。
- ・採用予定について、新卒・非正規では、昨年と比べて大きな変化は見られなかったが、中途採用を予定する企業は51.7%と、前回調査を上回った。

◆ 設備投資について

- ・現在の設備投資状況は、「適正」が55.8%と過半に達し、設備不足が一部和らいでいる一方、「不足」が41.1%と、設備不足感は解消されていないことがうかがえる。
- ・3年以内に設備投資を予定する先は62.1%と、現在の設備状況について「不足」とする先を上回った。設備状況が「適正」な企業の中でも、更なる追加投資を検討していることが窺える。

◆ 今後重視する経営課題について

- ・今後重視する経営課題を尋ねたところ、「人材の確保・育成」が61.5%で最多となり、依然として大きな経営課題となっている様子が窺える。
- ・次いで、「新規顧客・販路の開拓」が53.1%、「コスト削減・業務効率化」が47.9%の順となり、販路拡大や生産性向上への対応が喫緊の課題となっている様子が窺える。

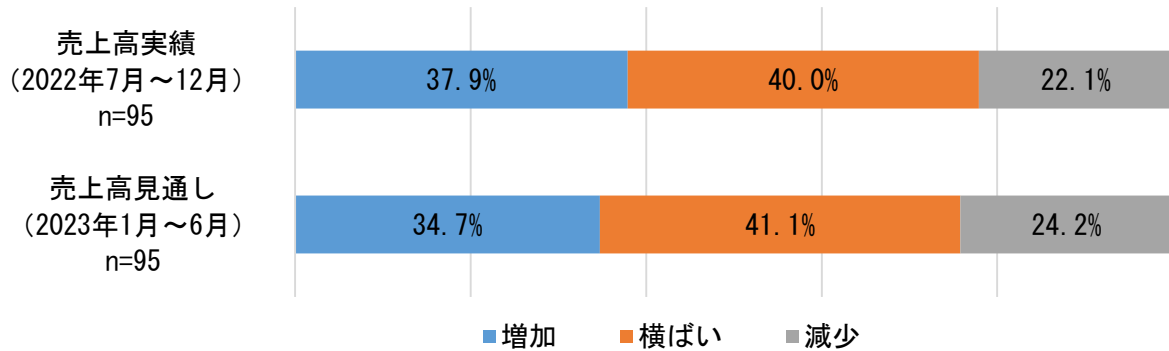
※本アンケートの数値は小数点第二位を四捨五入しております。

Copyright (C) 2023 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

本レポートは、当金庫が実施したアンケートに基づき集計分析したもので、無断で複写・転写することはできません。また、本レポートは情報提供が目的であり、お客さまの決定、行為、およびその結果について、当金庫は一切の責任を負いません。

1. 売上高実績と今後の見通しについて

(SA)

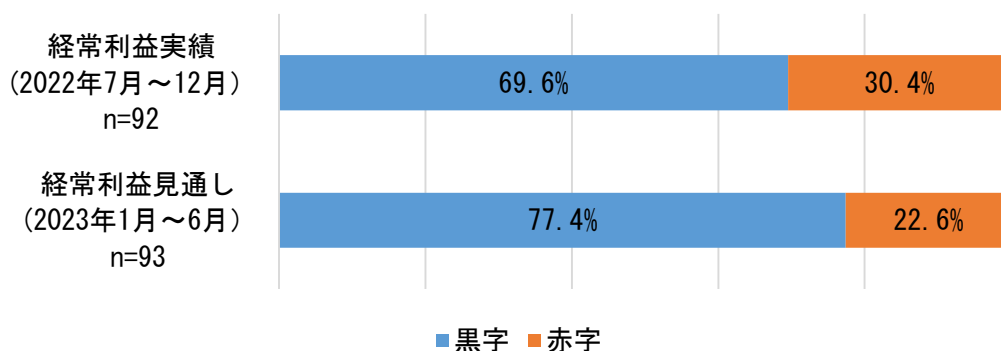


売上高実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2022年7月～12月の売上高実績（2022年1月～6月対比）は、「横ばい」（40.0%）が最多となり、次いで「増加」（37.9%）となった。

2023年1月～6月の見通しについては、「増加」（34.7%）が減少する一方、「横ばい」（41.1%）、「減少」（24.2%）が増加し、今後も厳しい見方を示している。

2. 経常利益実績と今後の見通しについて

(SA)

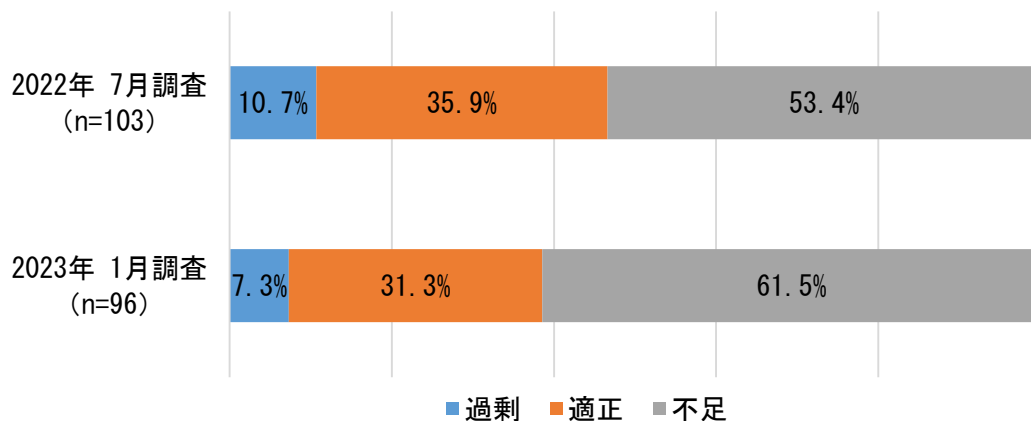


経常利益実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2022年7月～12月実績は、「黒字」が69.6%となり、2022年7月調査（以下、前回調査）の71.3%をやや下回った。2023年1月～6月の見通しについては、「黒字」が77.4%と、実績と比べ+7.8ポイントとなり、業況回復する見通しを示した。

3. 雇用状況について

3-1. 現在の雇用状況について

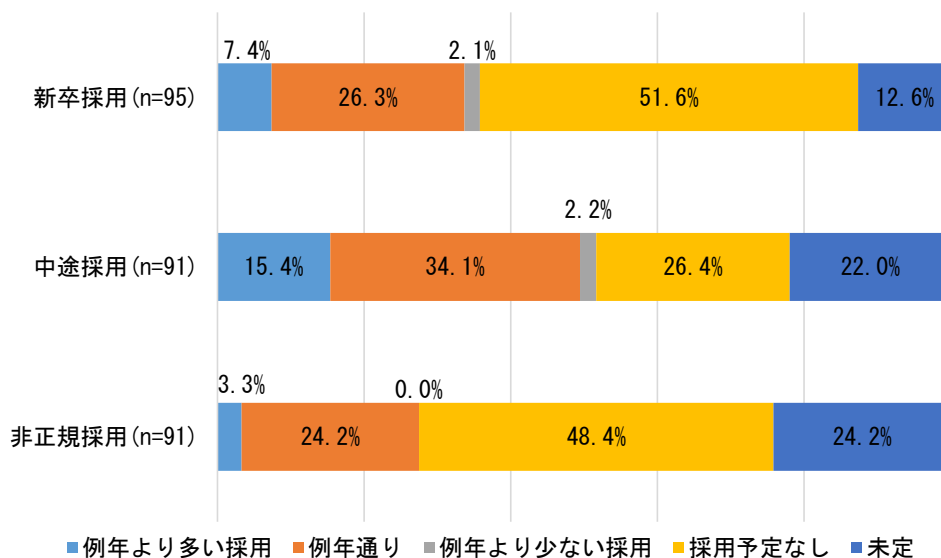
(SA)



現在の雇用状況を尋ねたところ、「不足」が61.5%で最多となり、次いで「適正」(31.3%)となった。「不足」と回答した割合は前回調査より8.1ポイント増加しており、人手不足感が一段と強まっている。

3-2. 今年の採用予定について

(SA)



今年の採用予定について尋ねたところ、新卒採用については、「採用予定なし」が51.6%で最多となり、次いで「例年通り」(26.3%)、「未定」(12.6%)の順となった。新卒の採用予定については、前回調査から大きな変化は見られなかった。

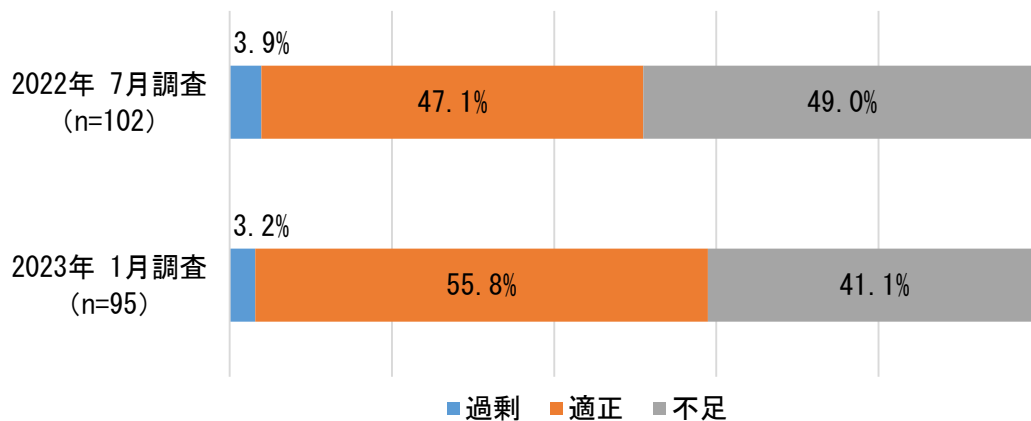
中途採用については「例年通り」が34.1%で最多となり、次いで「採用予定なし」(26.4%)、「未定」(22.0%)の順となった。「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」を合わせた中途採用を予定している先は51.7%と、前回調査(42.1%)を9.6ポイント上回った。

非正規採用については「採用予定なし」が48.4%で最多となり、次いで「例年通り」、「未定」(ともに24.2%)の順となった。非正規採用については、前回調査と大きな変化は見られなかった。

4. 設備投資について

4-1. 現在の設備状況について

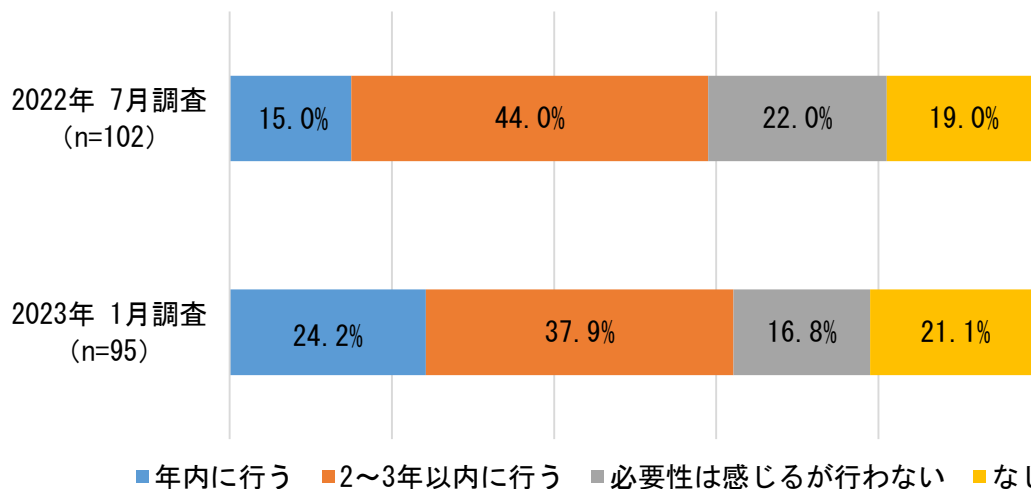
(SA)



現在の設備状況について尋ねたところ、「適正」が55.8%で最多となり、次いで「不足」(41.1%)となった。前回調査と比べ、「適正」が8.7ポイント増加して過半に達し、設備不足が一部で和らいている一方、「不足」と回答した企業は依然4割を超えており、設備不足感は解消されていないことが窺える。

4-2. 今後の設備投資の予定について

(SA)

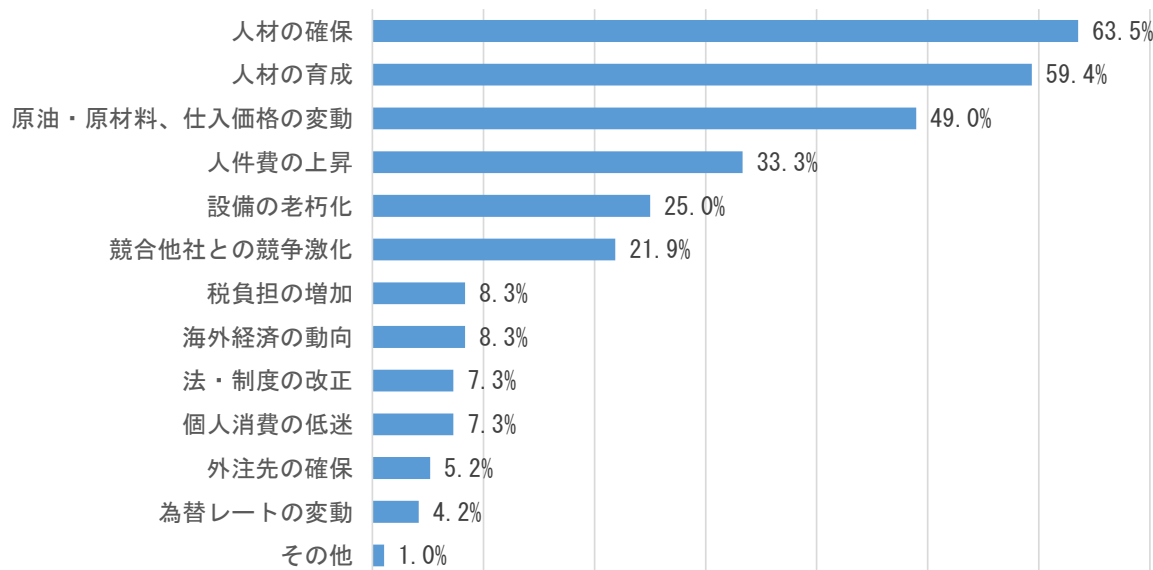


今後の設備投資の予定について尋ねたところ、「年内に行う」企業は、24.2%と前回調査から9.2ポイント増加し、「2~3年以内に行う」企業は37.9%と前回調査より6.1ポイント減少した。

「年内に行う」、「2~3年以内に行う」とする先の合計は62.1%と、前問の「4-1. 現在の設備状況について」で「不足(41.1%)」と回答した企業を上回っており、「適正(55.8%)」な企業でも、更なる追加投資を検討していることが窺える。

5. 今後の懸念材料について

(n=96、MA)

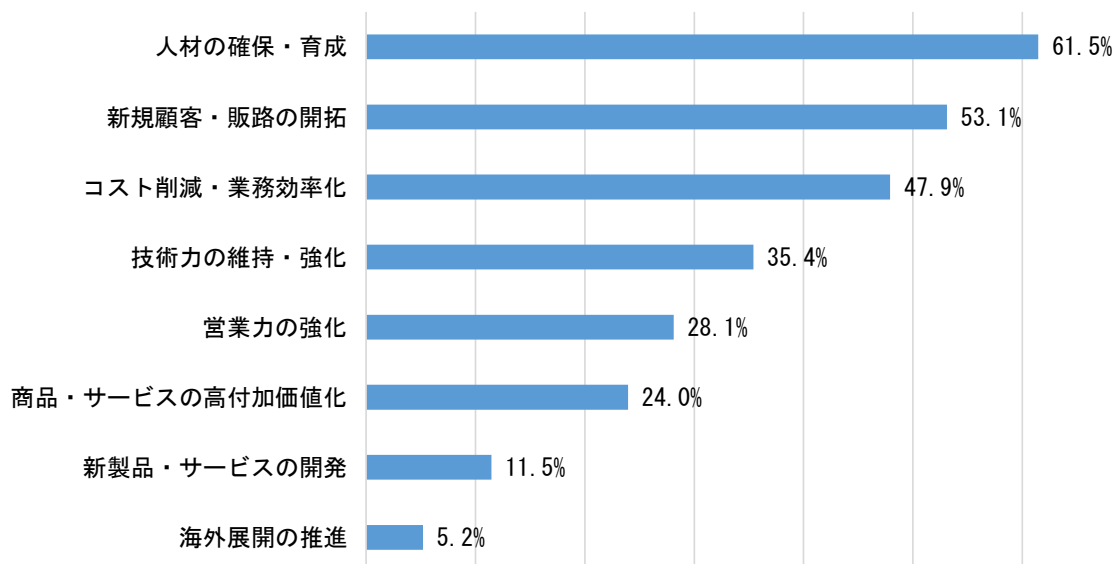


今後の懸念材料について尋ねたところ、「人材の確保」が63.5%で最多となり、次いで「人材の育成」(59.4%)、「原油・原材料、仕入価格の変動」(49.0%)の順となった。

これまでの調査同様、人材に関する事項が最も大きな懸念となっている。また、原材料・仕入価格のさらなる高騰を警戒する様子が窺える。

6. 2023年において重視する経営課題について

(n=96、MA)



2023年において重視する経営課題について尋ねたところ、「人材の確保・育成」が61.5%で最多となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」(53.1%)、「コスト削減・業務効率化」(47.9%)の順となった。

人材に加え、販路拡大や生産性向上への対応が喫緊の課題となっている様子が窺える。

(静清信用金庫 経営相談部 令和5年2月作成)